

「生きる証を残したい」

東京パラ **銅** 池透暢さん

今年の東京パラリンピックの車いすラグビーで日本チームを引っ張ったのは、キャプテンである高知市の池透暢選手。

銅メダルでしたが、ハンディキャップのある選手たちがチームでお互いに支えあって活躍する姿は、私たちに力を与えてくれました。

池さんは2000年3月19歳のとき、友人4人とドライブ中に交通事故に遭い3人が亡くなりました。池さんは全身火傷を負い左足を切断、左手も感覚を失いました。



発行所
龍頭山 受法寺
〒781-0262
高知市浦戸 343
088-841-3870
URL: juhouji.com



E-mail
juhouji@gmail.com

先に生まれん者は、後を導き、
後に生まれんものは 先を訪へ

池さんは、友人3人が亡くなったことや苦しい治療で、自暴自棄になることもあったそうですが、

「息子を亡くした親御さんたちの気持ちを考えると、自分が息子のように一生懸命生きていく、絶対に這(は)ってでも友人たちのために生きた証を残してあげたい」と語っています。

「生きる証を残したい」

これが池さんを動かしている力だったのです。決して友達は亡くなって遠い世界にいったのではなく、今も池さん心の中にある。

池さんに生きていくための力を与えてくださるのです。

亡くなって仏と成られた方は、私たちを導いてくださっています。

先に生まれん者は、後を導き、後に生まれんものは 先を訪へ

と浄土真宗の宗祖親鸞聖人は『教行信証』で七高僧の一人、道綽(どうしゃく)禪師の『安樂集』を引いています。

私たちが、先にお浄土に往かれた方々を偲んで訪ね、私たちも同じお念仏の道を歩ませていただく。

そして、生死の海に沈み、苦しみと迷いの中にいるすべての人を救いたいという仏の願いのなかに自分自身のいのちがあり、すべての人がその願いによって生かされていることを、念仏の中に聞いていくのです。

連続無窮(むくぐ)にして、願わくは 休止せざらしめんと欲す 無辺(むへん)の生死海(しじうかい)を尽くさんが ためのゆえなり

報恩講法要

日時 十月十六日(土) 昼二時
法話 丸山英人師

本願寺派布教使 福岡県光輪寺